

Economic Impacts of Herd Behavior in the Japanese Loan Market

関西大学 中川 竜一

東京大学大学院 大岩 秀和

東京大学 武田 史子

この論文では、1975年から1999年の国内貸出市場において、金融機関が非効率な横並び行動 (herd behavior) をとっていたかどうか、またそれが実体経済に影響を与えていたかどうかを実証的に明らかにする。国内金融機関の県別貸出データを用いて分析した結果、国内金融機関は非効率な横並び行動をとっていたことが明らかになった。とりわけ、1980年代後半のバブル期に強い横並び行動が見られた。次に、非効率な横並び行動によって生まれた貸出は、数年後のGDPおよび地価に負の効果を与えることが明らかになった。一方、通常の貸出は正の効果を与えていた。この結果は、国内金融機関がしばしば横並びによって非効率な貸出行動をとっていたことを示唆している。また、1990年代の実体経済の落ち込みの原因の一つとして、1980年代後半のバブル期におこなわれた横並び行動の影響が考えられる。